

〈解答〉

- 1 (1) ① ア ② ア (両解)
(2) ア, エ (順不同・両解)
(3) ① おしべ ② 胚珠 (両解)
(4) レボルバー
(5) ア

配点 各1点 5点満点

〈解説〉

- 1 (1) ルーペを使って観察するときには、対象物が動かせる場合は、一方の手にもったルーペをできるだけ目に近づけた後、もう一方の手に持った対象物を前後に動かすことでピントを合わせるようにする。ただし、対象物が動かせない場合は、一方の手にもったルーペをできるだけ目に近づけた後、顔とルーペを一緒に前後に動かすことでピントを合わせるようにする。
- (2) スケッチするときには、よくけずった鉛筆を使い、できるだけ線を重ねずにかくようにする。また、影はつけずに、細部まではっきりとかくようにする。かくものは対象物のみにし、観察したときの日時や天気なども記入しておくといよい。
- (3) 2図にA～Cで示したつくりは、それぞれめしべ、おしべ、子房である。おしべのやくにできた花粉がめしべの柱頭につくことを受粉といい、受粉が行われた後、子房は果実へと成長し、子房の中にある胚珠は種子へと成長していく。
- (4) 3図の顕微鏡では、レボルバーに3個の対物レンズがとりつけられていて、レボルバーを回すことで使用する対物レンズを交換することができるようになっている。つまり、いちいち対物レンズをつけかえる必要がない。
- (5) 4図の生物はハネケイソウという生物である。ハネケイソウは藻類に属する植物プランクトンであるため、ほとんど動かない。また、ハネケイソウは、葉緑体もっていて、光合成を行っている単細胞生物である。一方、選択肢イ～エはすべて動物プランクトンで、エサを求めて活発に動き回っている。ゾウリムシとアメーバは単細胞生物、ミジンコはエビやカニと同じ甲殻類に属する多細胞生物である。